

49th

令和4年度2月号 [2月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

時の流れに身をまか、、、任せられないでしょ！

校長 松田 隆幸

あっという間に2月。するってえーと あっという間に3月になるということか？時間がたつのは早いものです。以前に増して早く感じるようになりました。時々この学校だよりに登場するラジオ番組ネタでこのことを解説すると、10歳の子の1年は人生の1/10(0.1)である。100歳の方の1年は1/100(0.01)である。故に、人の1年は自身の人生の何分の1に相当するかとの計算から、年齢を重ねた方の方が数値は小さくなり、感覚的にもあっという間の1年として感じると言っていた。本当だろうか？でも、今年60歳になる自分は、やけにこの話に納得してしまうのです。

時間はみな平等に流れている。だからこそ、その時間の価値を高めるには、使い方次第ということになる。こんな考えを持つこと自体、時間を支配する神でもなく、のぼせた考えかもしれない。そんな事わかっている。言われなくても知っている。でも、できない。

「勉強しなさい！」「今やろうと思っていたのに、その一言で、やる気無くした」こんなことがザラにある。昭和の大先生は「わかっちゃいるけど、、、」とその人間の煩悩を歌にしたが、まさに、時間の使い方なんて言うものは、人間の煩悩との闘いかもしれない。今宿題に手を付けないと間に合わなくなる。分かっているのに手を付けることができず、時間だけが過ぎていった。そんな覚えがある人は多いのではないだろうか？

今 こうしている間に流れている時間も、高校入試直前に流れている時間も同じ速さ。わずかな休み時間でも遊んでいた生徒でさえ、試験前の同じ長さの時間では参考書に目をやる時間に使う。その5分・10分の使い方を学校生活の時間で毎日積み重ねていたならば、、、。そう思うと取り返しのつかない後悔だけが私の心に湧いてくる。そのくせ、同じ10分でも、面接の時間だと何時間にも感じる。でも、同じ10分。無駄にしないようにだけを考えてはならないとも思う。無駄は必要だからだ。息は吐かなければ、吸えない。リラックス、休憩は絶対に必要。大切なのは息を吐いてから、次の行動に移す、行動に変える意思の強さ。つまりは煩悩と戦う力なのかもしれない。

巧遅拙速という言葉が中国の「孫子」という書にあるようです。いくら巧みでも、遅いのはだめ、多少つたなくとも速い方にこしたことはないという意味。兵法書の言葉とはいえ、今の時代、よりスピードが求められる場面が多くなってきているように思える。それは時代の流れであり、求めなのでしょう。ですが、その時代の、時の流れに身を任せてはいられない。学校も激変の時にあって、時の流れに乗らざるを得ないこともあろうが、時の流れを生み出す側でありたい、、、。っと思ってしまったこと自体が、時のコントロールに苦しむ煩悩の業なのでしょうか？

令和5年岸川中学校は創立50周年
2023 Kishikawa.J.H.S 50th ANNIVERSARY